

インフォメーション



NO. 30

1978年7月

目次

	頁
1. 第11回総会及び第19回運営委員会報告	1
2. 第11回大会を終って	2
3. 10年目の反省について	3
4. 次期会長, 運営委員の選挙について	4
5. DGD編集委員会報告	4
6. 梶山正雄先生記念論文の寄稿について	5
7. 「変態の生物学」の予約販売について	6
8. 山田科学振興財団への推薦について	6
9. 会員名簿作製について	8
10. 事務局より(訂正とおわび)	8
11. 会員異動	8
12. 日本発生生物学会会則	11

日本発生生物学会

東京都町田市南大谷11号(〒194)
三菱化成生命科学研究所発生生物学研究室内

1. 第11回総会及び第19回運営委員会報告

総会は5月26日午後、三島市公会堂で行なわれた。議長は塩川光一郎氏。主な審議報告は次の通り。

1. 52年度決算報告（別表）が前会計幹事石母田 忠氏によって行なわれ、杉山勉、大井優一両会計監査員より帳簿を監査の結果適正であったことが報告され、承認された。
2. 53年度予算（別表）が山崎君江会計幹事より説明され、承認された。
3. 52年度学会活動報告が加藤淑裕幹事長より行なわれた。
4. 次期会長及び運営委員の選挙において、第6回選挙管理委員として水野丈夫氏（長）、八杉貞夫氏、入江伸吉氏の3氏が運営委員会により委嘱された旨加藤幹事長より報告された。
5. 54年度の第12回大会は北大が中心となって開催を引き受ける旨、原田市太郎氏（北大・理植）より報告があった。（7月上旬、札幌市内で行ないたいとお話してですが詳細は本年末発行のサーキュラー№31に掲載の予定）
6. DGD編集状況について天野実編集幹事より報告された。
7. 山田科学振興財団について、加藤幹事長より説明された。詳細は本サーキュラー、別項参照。
8. 10年目の反省について加藤幹事長より経過が説明され、団会長より発言がなされた。続いて運営委員会から学会員の意見のとりまとめ役を指名された江口吾朗氏より意見書及び答申（本サーキュラー別項参照）について説明が行なわれた。その後、会場内の会員から多くの意見が述べられた。今後、江口吾朗氏を中心として、意見の具体化が進められることになった。

昭和52年度決算報告

(53. 5. 26)

収	入	支	出
	円		円
前年度繰越金	2,959,659	編集局経費	1,824,058
学 会 費	2,291,407	事務局経費	755,895
DG売上げ	3,179,916	DGD印刷製本費	4,824,900
広 告 代	80,000	内訳 (vol 18 №4	1,636,800)
単行本売上げ	1,374,460	(vol 19 №1~3	3,188,100)
文部省助成金	1,310,000	第10回大会講演要旨集印刷費	384,940
DGD充実のための基金	41,000	サーキュラー印刷費	107,000
団氏記念論文著者負担金	754,494	運営委員会経費	139,880
講演要旨名簿売上げ代金	3,280	第11回大会援助費	70,000
銀 行 利 息	55,774	国際発生物学会議共催費	150,000
		単行本(受精の生物学)諸経費	469,000
		郵便振替手数料	24,410
		銀行手数料	2,050
		次年度繰越金	3,297,857
計	12,049,990		12,049,990

昭和53年度予算

取	入	支	出
前年度繰越金	3,297,857	編集局経費	2,735,000
学会費	3,400,000	事務局経費	1,000,000
DGD売上げ	3,000,000	DGD印刷製本費	5,600,000
広告代	200,000	第11回大会講演要旨集印刷費	400,000
単行本売上げ	2,000,000	単行本諸経費	1,000,000
文部省助成金	1,310,000	サーキュラー印刷費	120,000
DGD充実のための基金	100,000	運営委員会経費	200,000
銀行利息	50,000	第12回大会援助費	70,000
		会長運営委員選挙費用	50,000
		郵便振替手数料	40,000
		銀行手数料	5,000
		予備費	100,000
		(10年目の反省に関する費用も含む)	
		DGD年6回発行のための準備金	
			2,037,857
計	13,357,857		13,357,857

第19回運営委員会が5月23日、国立遺伝学研究所内で行なわれた。

出席者：団会長、江口、大西、岡田、加藤、金谷、黒田、酒井、米田、渡辺（以上運営委員）、石母田（前会計幹事）、田中、山崎（事務局）。

報告、審議事項は総会報告の項と重複するので割愛する。

2. 第11回大会を終って

本学会も発足以来10年を経て、幼児期からようやくティーンエイジに達し、学会のあり方について1つの反省がなされようとしている時、会員の皆様を三島にお迎えして第11回大会を開きました。幸い、天候にもめぐまれて、東海道五十三次の三島の宿での大会も、何とか無事終了できましたことを心から喜んでおります。

今度の大会では、会場を思いきって1つにし、講演時間も従来通りの20分とし、特別講演、シンポジウム、懇親会、映画と、連日朝9時から夜8～9時にいたるまで盛り沢山の日程に、団勝磨会長を始め若い研究者の方々もよくおつきあいいただきましたことを、大会委員一同厚く感謝いたしております。

1,000名を収容する三島市公会堂は、発生生物学学会大会の会場としては少し広い感がありましたが、ともかく1つの会場で参加者全員が一堂に会して、ゾウリムシからキノコ、ウニ、ヒトデ、ミミズ、ホヤ、ショウジョウバエ、カエル、ニワトリ、マウス、ハムスターと、さまざまな生物を使った多彩な発生生物学の研究成果について、地位や年令を抜きにして、活発に、また思い切った討議ができましたことは、座長を始めとする参加者全員の熱意のたまものと、厚く御礼申し上げます。

大会のあり方や、プログラムの編成、シンポジウムのきめ方、その他大会運営に関しては、大会総会で名大・江口吾朗教授から、学会10年目の反省事項として改善についての答申がまとめられ、今後、具体的に実現の方向に向って進むことと思われます。しだいに多様化し、専門化して行く研究内容をできるだけ深く掘り下げということと、他の異なった分野の研究の動行についてできるだけ広い情報、知識を吸収するという相反する2つのテーゼを、大会の運営の上でどのように解決して行くか、ということ深く考えさせられました。

来年、札幌で開かれます第12回大会には、できるだけ多くの会員の皆様、津軽海峡を渡って、新しい実りある研究の成果を発表され、討議されますことを期待しております。

(大会委員長 黒田行昭)

3. 10年目の反省について

—— 日本発生物学会10年目に関する記 ——

インフォメーション・サーキュラー第29号で公示されたように、本年は本学会発足以来10年目に当り、会則の定めるところによって、本学会の今後の発展を期して、過去10年を反省することとなった。運営委員会より、江口吾朗氏(名大、理・分子生物学)がまとめ役として指名された。江口氏により、広く会員の方々の意見がとりまとめられて、第19回運営委員会へ答申され、更に、第11回総会において報告された。江口氏の意見書は、総論、学会員から寄せられた意見のまとめ、運営委員会への答申の項から成るが、本号には、総論と答申の各項について要約された部分が掲載されている。なお、意見を寄せられた会員の方々に対して、江口氏は謝意を表されています。(事務局記)

「日本発生物学会10年目の反省に関する意見書(要約)」

1978年5月17日 日本発生物学会会員 江口吾朗

I 総 論

周知のように、発生物学の分野はますます拡大されており、その重要性への関心は、この10年間に、より一層増大している。このことは10年前に本学会が創立された当初から、十分予測されておりそれに応ずべく、生物科学のさまざまな分野から発生物象に関係のある研究を展開されておられた方々の参加を広く求めて、本学会の発展を期したのであった。過去10年をかえりみると、本学会の運営は、わが国の同規模の他学会にしろべて、比較的にはあるが、より近代的であり合理的のようであったと思われる。

大会の運営、国際雑誌の刊行など、学問的には、比較的順調な発展をみたといつてよいであろう。しかし、発生物学の世界的な広がり現状とその勢いには、本学会の活動は残念ながら程遠いものがある。発生物学の一つの大きな源流は、動物発生学であって、これが現在でも、また国際的にも重要な柱の一つになっていることは疑う余地のないところである。しかし、わが国では、「動物発生学」即「発生物学」とする見方が強過ぎて、これが学問における後進性を生む因を成しているように思われる。事実、そのような傾向は、本会の10年間の推移の過程にも明らかにみ

うけられ、その結果、発生生物学の重要な研究者のかなり多数の方々が、現在なお本学会に参加されていないし、心ある会員の熱意をも損ねているようである。本会は、現在もなお、実質的には『日本動物発生学会』としてしか認識されておらず、わが国の発生生物学者が大同して活動する場と成りきっていないのは誠に残念な現状といわねばならない。本学会発足10年にあたり、会員各自からよせられた意見に基づき、次に上げることがらが早急実現されるよう希望します。

II 運営委員会への答申

会員から寄せられたさまざまな意見を十分考慮し、早急を実現することが可能なこととして次の項目を答申する。

1) 学会内部の活動として可能な事項

- (i) わが国の“発生生物学”研究者で本会に未加入の方々の早急の参加を図る。
- (ii) 大会は主催地・主催者の自主性が尊重されるべきであるが、本会の存在の意義が常に明らかにされる様に、大会の行事、プログラムなど学会全体として配慮されなければならない。
- (iii) 研究者間の実質的な交流を促進するために、会員の発議によるワークショップなどは可能なかぎりとりあげて、本学会の事業としてそれを援助できるようにする。
- (iv) 運営委員会は、現在の委員選出法によるかぎり、委員の固定化ならびに委員の研究分野のかたよりはさげられない。新しいテーマの研究者や若い世代の研究者が委員会活動に参加できるよう新しい運営委員選出法に改善すべきである。

2) 学会が中心となるか、あるいは学会が支援して組織すべき活動に関する事項

- (i) IUBS研連に発生生物学研連を組織する。
- (ii) 発生生物学関係の新しいテーマについて、早急に特定研究の申請を行なえるような組織を実現すべきである。

4. 次期(第6期)会長及び運営委員の選挙について

総会報告の項でお知らせしましたように、第6回選挙管理委員(水野丈夫氏、八杉貞夫氏、入江伸吉氏)の管理の下に会長・運営委員の選挙が今秋行なわれます。

候補者の推薦文は8月31日迄に事務局宛、お送り下さい。投票用紙、会員名簿、推薦文等は9月中旬に各会員へ送付されます。

5. DGD編集委員会報告

7月5日、編集主幹オフィス(京大理学部)においてDGD編集委員会を開催しました。出席者: 団、岡田溢吉、加藤、金谷、鈴木、藤田、山名各委員、岡田主幹、天野幹事、谷主幹秘書。

1) 1978年度前半期の事業報告。現在、vol. 20, No. 2の校正がほぼ終了し、近く発刊される。vol. 20, No. 3は7月中に原稿を印刷に回付する予定。今年度前半に投稿された原稿数は30、うち12篇は受理済みで15篇が現在審査中である。

2) 先に運営委員会で諒承された前学会会長、前DGD編集主幹、相山正雄先生の記念論文募

集につき、別頂の通り発議人会を設けて実行することを決定。

- 3) 1979年度より6回刊行を行なうに当って、編集業務の円滑な運営のための諸方式を検討。これらについては1979年度の予算作製と関連させて次回委員会で実行案を具体的にまとめる。
- 4) 外国人DGD個人講読希望者の取扱いについては、先に運営委員会において論議され、加藤幹事に原案作製を依頼されているところであるが、この問題はDGDの刊行と具体的な関係があるので、DGD編集委員会で検討した。その結果を加藤幹事に伝えた。これらについては別頂で紹介される予定。

DGD編集主幹

岡田節人記

付記：前号のサーキュラーにDGDの編集手続きについての紹介記事を掲載しました。これは、投稿頂く方の便宜になるかと考えたと同時に編集の事務的内容を御理解頂きたいと思ったからであります。幸いに、かなりの会員の方々が参考とされているようで喜んでおりますが、DGDに投稿され際、この記事に眼を通して下されば有難いのであります。なお、この記事中の天野幹事の内線番号は375であります。訂正します。

6. 相山正雄先生記念論文の寄稿について

前発生物学会会長、前DGD編集主幹、相山正雄先生は、本年をもって70才を迎えられました。先生が長らくにわたって、生物学の進歩と本学会の発展に尽力されたところは、誠に大であります。70才を迎えられるに当り、私共は自発的になんらかの記念の行事を企画したいと考えました。つきましては、この際御賛同頂ける方々が先生に dedicate する論文をDGDに投稿され、これをもって記念としたいのであります。学会長、DGD編集委員会と相談しました結果、次のような要領で実行に移したいと存じます。御協力、御支援をお願いします。

要 項

- ①記念論文として寄稿される方は論文第1頁にその旨を記すこと。
- ②特集号を発刊するのではなく、vol. 21, No. 1 ~ No. 6までに記念論文を印刷する。記念論文の受け付けは、一応1979年9月末までとする。
- ③掲載までの手続は、記念論文である理由で特別扱いはしない。また、記念論文の発刊により一般論文の発刊が遅れることがないようにするのは、もちろんです。
- ④記念論文の印刷費の半額は著者負担とする。
- ⑤vol. 21, No. 1に適当な方に、相山先生を記念する2頁程度の記事を依頼して掲載する。

発起人 岡田節人(京大・理)

金谷晴夫(基礎生物学研究所)

小嶋 学(名大・菅島臨海実験所)

7. 「変態の生物学」の予約販売について

日本発生物学会編単行本第6集「変態の生物学」は9月下旬に刊行されます。本学会では、これら単行本の刊行を学会活動の一端と考えておりますので、前回同様、会員には購入の補助という形式で便宜を計ります。しかし、現在、本の定価等未定ですので、頒布を受けられる場合の手続きに関しては、9月上旬予定の投票用紙送付の際にお知らせします。

「変態の生物学」内容 A5判、約270頁

- 第1章 無脊椎動物の変態
- 第2章 クラゲの変態
- 第3章 ヒトデとナマコの変態
- 第4章 ウニの変態
- 第5章 昆虫の変態
- 第6章 昆虫の変態における成虫原基
- 第7章 昆虫の変態における複雑な問題
- 第8章 ホヤ類の変態
- 第9章 魚類における変態
- 第10章 両生類の変態とそのホルモンによる制御
- 第11章 変態とはなにか

8. 山田科学振興財団への推薦について

今年度から日本発生物学会は、山田科学振興財団より研究援助推薦を依頼されることになりました。第19回運営委員会において、学会内の推薦手順は次のように決定されました。

- 手順 1. 昭和53年9月30日までに申請（書類を事務局宛郵送）
- 手順 2. 昭和53年10月上旬 学会内審査
- 手順 3. 昭和53年10月中旬 推薦

用紙は事務局にあります。御入用の方にはお送りしますのでお知らせ下さい。

推薦要領は以下に記される通りです。

昭和53年度

山田科学振興財団研究援助候補推薦要領

1. 援助の趣旨

本財団は、自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究、特に学際的色彩を持つ研究に従事する個人又はグループに対し援助します。

2. 援助の金額及び期間

- イ. 金額 総額 1億2千万円
1件につき1千万円前後2千万円以内の援助(A)及び1件につき3百万円前後、
5百万円以内の援助(B)を併せて10数件
- ロ. 期間 1年を原則とします。研究の継続を必要とする場合は、毎年提出された推薦書に基づき選考します。

3. 推薦方法

- イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者
- ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに(A), (B)おのおの1~2件
- ハ. 推薦手続 推薦者は、本財団が送付した所定の用紙又はその写しに必要事項を記入し、
関連主要報文一覧表を添え、本財団あておのおの5部ずつをご送付願います。
なお関連主要報文の代表的別刷は1部ずつご送付願います。

4. 推薦締切日 本財団へ推薦書が到着する締切日は昭和53年10月27日(土)です。

5. 選考方法 選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

選考委員(敬称略)

上田良二	大沢文夫	岡田善雄	岡村誠三	金谷晴夫
川村 肇	佐藤文隆	近藤文治	杉本健三	鈴木友二
早石 修	平田義正	古谷雅樹	神谷宣郎	高村仁一
永宮健夫	仁田 勇			

6. 選考結果の通知 昭和54年3月迄に推薦者及び代表研究者等にあてて通知します。

7. 援助金の贈呈 昭和53年3月以降

8. 推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号 ロート製薬(株)内

電話 大阪(06)758局1231 内線428番

付

- イ. 援助金の使途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 援助金から支出することのできない経費は、文部省科学研究費の場合に準じます。
- ハ. 援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果又は会計について報告書の提出又は発表を求めます。
- ニ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団, Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類いにあつてはその別刷10部、また著書の類いにあつてはその3冊をご寄贈願います。
- ホ. ご提出いただきました推薦書及び添付資料は、お返しいたしません。ただし、報文別刷に限り返却ご希望の場合はその旨申請書第1頁欄外の脚註別刷の欄にご記入願います。

9. 会員名簿作製について

今秋行なわれる会長，運営委員の選挙を機に，新名簿を作製する予定です。所屬，住所などに変更がありましたら，至急（8月15日まで）事務局宛御連絡下さい。

10. 事務局より（訂正とおわび）

前号のサーキュラーNo.29に誤りがありました。

- ① 表紙，事務局の住所の郵便番号 誤 〒 195 → 正 〒 194
- ② 7頁 DGD原稿についての連絡先：編集幹事天野実氏の所屬，内線番号
誤：広島大学総合科学部 → 正：広島大学総合科学部
誤：内線 374 → 正：内線 357

天野実氏および会員の皆様に心からおわび申し上げますとともに，訂正させていただきます。

11. 会 員 異 動

<新入会員>

- | | |
|------------------------|---|
| 野 村 孝 弘 金沢大，癌研究所，分子生物 | ①マウスのテラトーマ |
| | ②マウス |
| 松 本 えみ子 埼玉大，理，生化学科 | ①アヒル胚鳴管の発達 |
| | ② Duck embryo |
| 中 西 真 人 大阪大，理，生物 | ①真核生物細胞における遺伝情報発現調節の
分子的機構 |
| | ②細胞性粘菌・培養細胞株 |
| 加 藤 育 雄 名古屋大，農，家畜育種学 | ①マウス胚の初期発生 |
| | ② Mus musculus |
| 雨 宮 昭 南 東京大，理，臨海実験所 | ①ウニ胚の繊毛形成 |
| | ②ウニ |
| 松 本 真由美 東京都立大，理，生物 | ①ウニ胚発生機構の細胞レベルでの解析 |
| | ② Pseudocentrotus depressus Hemicentrotus pulcherrimus Clypeaster japonicus |
| 日 野 晶 也 早稲田大，教育，理学科，生物 | ①受精における生化学的変化エネルギー代謝
の調節機構 |
| | ②ウニ，カキ，ユムシなど |
| 安 田 峯 生 広島大，医，第一解剖 | ①四肢の正常及び異常発生機序 |
| | ② Homo sapiens Mus musculus |

- 渥美忠男 京大, 理, 生物物理 ①細胞間接着機構
 チャイニーズハムスター肺由来V79細胞
- 尾崎宏基 京大, 理, 生物物理 ①細胞間接着機構およびその特異性
 ②チャイニーズハムスターの肺由来の株細胞
 (V79)およびニワトリ胚の神経性網膜細胞
- 青山裕彦 京大, 理, 生物物理 ①細胞接着
 ②V79細胞, エールリッヒ腹水癌細胞
- 伊藤忠直 京大, 理, 生物物理 ①マクロファージの食作用機構
 ②マクロファージ
- 坂倉照好 愛知県癌センター研究所, 病理学第二部 ①上皮-間葉相互作用と癌発生
 ②マウス乳腺
- 西塚泰章 愛知県癌センター研究所, 病理学第二部 ①上皮-間葉系相互作用と癌発生
 ②マウス乳腺
- 藤沢弘介 静岡大, 理, 生物 ①鶏胚羊水中のシアル酸の動態, ウニ遊泳胞
 胚分離細胞の接着について
 ②ニワトリ, タコノマクラ, パファンウニ
- 芳賀信幸 東北大, 理, 生物学 ① Control of Gene Expression
 ②ゾウリムシ *Paramecium caudatum*
- 橋本研二 京大, 結核胸部疾患研究所, 病理学 ①発癌と分化
 ②マウス, ラット
- 片桐洋子 三菱化成生命科学研究所 ① Suspension culture におけるニワトリ胚
 軟骨に与えるニワトリ胚抽出物の効果
 ②ニワトリ (白色レグホーン) 胚の軟骨細胞
 ヒトデ (*Asterias amurensis*) 卵ゼリー
- 粕谷博之 宮城県村田高等学校 ①魚類, 両生類の初期発生 (初期胚の細胞社会学, 個体差の発生とその意義
 ・免疫
 ・魚類の hatching process と hatching enzyme
 ②メダカ (*Oryzias latipes orange-red variety*) イモリ (*Cynops pyrrhogaster*)
- 野崎通子 弘前大, 理, 生物 ①細胞の組織構築
 ② Hydra
- 小早川義尚 京大, 理, 動物 ①動物の初期発生に関して
 ② *Cynops pyrrhogaster* イモリ等両生類
Asterina petinifera イトマキヒトデ等, 棘

坂井 雅夫 京都大, 理, 動物

溝口 元 早稲田大, 教育, 生物

江坂 高志 京都大, 理, 動物

上田 正道 京都大学ウイルス研究所

村松 喬 神戸大, 医, 第一生化学

今井 裕 京都大, 農, 家畜繁殖学

木村 資亜利 (自)東京都目黒区中目黒4-12-1
松風園コーポ 502号

菅野 義信 広島大, 歯学部, 口腔生理学

中島 由美子 北里大, 医, 生化

<住所変更>

新

受島 敦美 熊本大, 医療承術短期大学部

波磨 忠雄 愛知医科大, 生物

安倍 紀一郎 熊本大, 医療技術短期大学部

井口 泰泉 重井医学研究所

皮動物等

①主として両生類の初期発生

② *Xenopus laevis*

①ウニ胞胚形態形成機構

ウニ (バフンウニ, ムラサキウニ, アカウニ)

①ミズクラグ幼生エフィラの断片における形態調節

胎生メダカ, プラティーソードテイル系におけるメラノーマ

② *Aurelia aurita*

Xiphophorus maculatus

Xiphophorus nelleri

①免疫, 異物認識

②マウス

①テラトカルシノーマの細胞表面糖蛋白質

②テラトカルシノーマ

①哺乳動物, 特に家畜の体外受精

②実験小動物 (マウス, ラット, ハムスター)

ウシ, ブタ, ヤギ

①インドエジカ染色体の DNA 複製パターンの解析

②インドホエジカ培養細胞 (耳, 皮膚, 繊維, 芽細胞)

Indian muntjac

Muntiacus muntjak

旧

熊本大, 医, 第3解剖

名大, 理, 生物

長崎大, 医, 第一生理

岡山大, 理, 生

橋本明彦	(自)大阪市天王寺区南河堀町5栄荘	大阪教育大, 教育, 生物
内山恒夫	京大, ウイルス研 (自)京都市左京区吉田下大路町58	神戸大, 理, 生物 (自)神戸市灘区一王山町 12-48
	久保勝彦方	中田アパート1号
野口政止	(自)東京都調布市つつじが丘 2-23-9	(自)東京都世田谷区南烏山町 6-10-4 308号
関口晃一	筑波大, 生物科学系	東京教育大, 理, 動
平林民雄	筑波大, 生法科学系	東京教育大, 理, 動
渡辺浩	筑波大, 下田臨海実験センター	東京教育大, 理, 臨海実
上田龍	筑波大, 生物科学系	東京教育大, 理, 動
柿沼好子	鹿児島大, 理, 生物	東北大, 理, 臨海実

<退会会員>

柳島直彦 名古屋大, 理, 生
 松橋肇 埼玉医科大, 第2解剖
 東幸雄 大阪歯科大, 薬理
 諸星静次郎 東京農工大, 農

12. 日本発生生物学会会則

会則は本則・付則・選挙細則よりなる。

本 則

第1条 本会は日本発生生物学会 (Japanese Society of Developmental Biologists: 略称は J S D B) という。

第2条 本会は発生生物学の進歩と普及をはかることを目的とする。

第3条 本会はその目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 欧文誌の刊行
2. 大会の開催
3. その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 本会の会員は通常会員, 賛助会員の2通りとする。

1. 通常会員は本会の趣旨に賛同し, 所定の手続を経て, 通常会費を納めたもので, 欧文誌などの刊行物の配布を受ける。また, 大会での研究発表の申し込みをすることができ, 総会の議事に参加することができる。
2. 賛助会員は本会の趣旨に賛同し, 本会の承認をうけ, 所定の賛助会費を納めた個人また

は法人で、欧文誌などの刊行物の配布をうける。

第 5 条 本会には次の役員をおく。

会長 1 名・運営委員若干名・幹事若干名（うち幹事長 1 名）・欧文誌編集委員若干名（うち編集主幹 1 名）・会計監査 2 名

1. 会長は本会を代表し、会務を統べる。任期は 2 年とし、連続 3 期つとめることはできない。
2. 会長および運営委員は運営委員会を構成し、本会の要務を審議し会の運営にあたる。運営委員会は会長・3 名以上の運営委員・30 名以上の通常会員のいずれかの要請により開かれる。

運営委員の任期は 2 年とし連続 3 期をつとめることはできない。会長が不測の事故などによりその任務を遂行できなくなった時は、運営委員会の議を経て会長代行をおくことができる。

3. 幹事長および幹事は会長を助けて庶務・会計などの日常の会務を処理する。
4. 会計監査は前年度の決算を監査する。
5. 欧文誌の編集主幹および編集委員は編集委員会を構成し、編集に関しての一切の責任を負う。編集主幹および編集委員の任期は 3 年とする。

第 6 条 本会の会計年度は 1 月 1 日に始まり同年の 12 月 31 日に終る。

第 7 条 本会は原則として年 1 回定時総会を開き、会務を協議し、議決する。なお会長が必要と認めたときには、臨時総会を開くことができる。

第 8 条 本会は定時総会のとき大会を開き研究発表などを行う。大会には大会委員長 1 名と大会委員若干名をおく。大会委員長は会長が委嘱し、大会委員は大会委員長が委嘱する。大会の運営は大会委員長の責任において行なう。

第 9 条 通常会員が会費を 1 年以上滞納したときには除名することがある。

第 10 条 本会は地方支部をおくことができる。

第 11 条 本会の会則の変更は総会において協議し、出席会員の 3 分の 2 以上の同意を得なければならぬ。

付 則

第 1 条 本会の事務所は運営委員会の議をへて会長が委嘱する。

第 2 条 会費は次の通りとする。

1. 通常会員は年額 6,000 円を年度始めに納入する。
2. 賛助会員の賛助費は年額 10,000 円以上とする。

第 3 条 会長および運営委員の選出方法は次の通り定める。

1. 会長および運営委員（14 名）は、通常会員の投票により選出される。その際、会員はそれぞれ若干名の候補者を推薦することができる。

2. 選挙の管理は運営委員会が委嘱した選挙管理委員（3名）が行なう。

第4条 幹事長および幹事は会長が委嘱し、運営委員会の承認をうける。

第5条 欧文誌の編集主幹 運営委員会が委嘱する。編集委員は9名とし、まず運営委員会が3名を選び、残り6名は編集主幹が指名する。

第6条 会計監査は運営委員会の議を経て会長が委嘱する。

第7条 本則第3条3項に定める事業を行なうために、委員会を設けることができる。委員は会長が委嘱し、うち1名を委員長とする。

第8条 運営委員会は少なくとも10年毎に、広く会員の意見を聞き、本会のあり方に関して根本的な再検討を加えねばならない。

第9条 本会則は昭和47年1月1日より施行する。

申し合わせ事項

1. 毎年1月1日から総会までの会の運営は会長の責任による暫定予算によって執行し、その会計年度の予算とともに総会で承認を受ける。

脚注1：1971年8月25日第4回総会にて承認。

脚注2：付則の第1条、第2条、第3条は昭和49年6月22日、第7回総会に於て変更した。

脚注3：昭和51年5月28日、第9回総会に於て前文を追加、本則第5条、第11条、付則第3条を変更した。

会長選挙施行細則

第1条 本細則は会則に定められた会長の選出に関する手続である。

第2条 選挙の施行に関する一切の管理は選挙管理委員（委員は委員会を構成し、1名を委員長とする）の責任の下で行なう。

第3条 選挙は通常会員の単記無記名投票によって行なう。

1. 投票用紙は選挙管理委員会所定のものに限り、所定の期日までに到着するよう郵送されなければならない。
2. 投票用紙には被投票者の姓名を明記すること。ただし、同姓同名の被選挙人が2名もしくはそれ以上ある場合は、住所所属機関名などを付記すること。

第4条 第3条に従って記載された投票を有効とする。ただし、2人もしくはそれ以上記名されたり、なに人を指すか判別不可能な記名があった場合は無効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。

第5条 第1次選挙において有効投票の過半数を得たものを当選者とする。過半数を得たものがないばあいは得票数の多いもの3名を第2次選挙の候補者とする。ただし、上位3番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が4あるいは、

それを越える場合には、これら同数得票者を第2次選挙の被選挙人とし、第3条に従って単記無記名投票とする。

第6条 第2次選挙において最多票を得たものを当選とする。ただし、最多得票数が2名もしくはそれ以上ある場合は管理委員の抽選によって当選者を決定する。

第7条 選挙の結果はただちに会長に報告され、当選者への通知は選挙管理委員長名で行なわれる。

運営委員選挙施行細則

第1条 本細則は、会則に定められた運営委員の選出に関する手続である。

第2条 (会長の場合と同じ——省略)

第3条 選挙は通常会員の14名連記無記名投票によって行なわれる。

1. 投票用紙は選挙管理委員会が定めたものに限り所定の期日まで到着するよう郵送されなければならない。

2. 投票は14名連記とし、被投票者の姓名を明記すること、ただし、同姓同名の被選挙人が2人もしくはそれ以上ある場合は、住所・所属機関などを付記すること。

第4条 第3条に従って記載された投票を有効とする。その他の有効・無効についての決定は選挙管理委員の協議によって行なう。

第5条 当選者は得票数の多いもの14名とする。ただし、得票数で上位14番目までに同数得票者があり、その総数あるいはそれより上位の得票者を含めた数が15あるいはそれを越える場合は下位の同数得票者について選挙管理委員の抽選により当選者を決定する。

第6条 会長が運営委員より選ばれた場合は次点者をくりあげる。


第7条 (会長の場合と同じ——省略)

SIGMA
PRICE LIST
APRIL 1977

**BIOCHEMICAL AND
ORGANIC COMPOUNDS**

for Research
and **DIAGNOSTIC
CLINICAL REAGENTS**

IT'S
EASY TO
ORDER
from
SIGMA



Telephone COLLECT
(Charges Reversed)
from Anywhere in the World.
8 A.M. to 7 P.M. Monday thru Friday
8 A.M. to 1 P.M. Saturday, Sunday and Holidays

314-771-5750

TO PLACE AN ORDER
Tell your operator that you want to place a collect call "to Sigma."

"Since this is our Order department, you will receive our credit a bit if you don't ask for the "Order department," or any certain individual. However, it is a good idea to get the name of the person you talk to in case a problem develops later.

TO CALL OUR CUSTOMER SERVICE DEPT. 314-771-5765
To discuss a shipping or technical problem, or for any reason, please call:
8 A.M. to 7 P.M.
Monday thru Friday

*If you have any trouble getting really excellent service at the above numbers, please phone me (Dan Smith) directly. Personal Service Guaranteed.
at 314-953-6412*

SIGMA シグマ製品がブーンと お求めやすくなりました!

日本特殊薬品では、アメリカ・シグマ社と代理店
契約を結び、シグマ社最新カタログの全製品を、
下記の要領で簡単にお求めいただけます。

- シグマ社の製品一切は、ご使用者への直結販売にかぎります。●遠隔地への送品には、荷造り・送料を実費申し受けます。少量の場合には、代金引換えにてお願いすることがあります。●汎用品はできるだけ常観していますが、品切れ、その他の場合は約1カ月のうちに取りよめます。(船便のときは約2カ月後)

お問い合わせは下記へ

《シグマ社受権代理店》

日本特殊薬品株式会社

大阪市西区京町堀1丁目8番22号 (〒550) ☎06(448)2261(代表)
私書箱番号 (〒530-91) 大阪中央局第756号

Call me anytime - day or night, Sundays or Holidays. I am usually (but not always) available. If you don't reach me, please try again later.

TELETYPE — TWX or Telex 910-761-0593

We have a TWX machine and our number is
If you have a TWX machine you may dial us directly.
If you have a Telex machine, contact your teletype representative for instructions. Don't try to dial our TWX number on a regular telephone — it won't work. You must have a teletype machine.
To call us "collect" on either a TWX or Telex machine, contact your teletype representative for instructions.

Although we accept "collect" teletype messages, they are allowed by only a few countries. Check with your teletype representative for details. If you cannot send your message "collect", we will be happy to reimburse the cost if you send us a copy of the message and the charges.

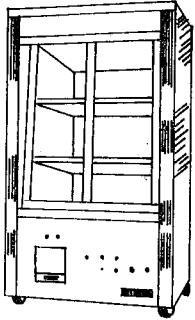
Our answer back code is "SIG MA Collect." Although you may send messages to us at night, we cannot reply immediately. Our machine is unattended Monday through Friday between 1700 and 0800, and all day Saturday and Sunday.

PLEASE HELP US TO HELP YOU —
If at all possible, don't send us a CONFIRMING PURCHASE ORDER at all. It serves no useful purpose, sets your phone number in shipping, and might result in a duplicate shipment which is NOT returnable. We do not re-ship returned reagents.
If a purchase order MUST be sent anyway, be sure it is clearly marked
"CONFIRMATION, DO NOT DUPLICATE"

SIGMA
CHEMICAL COMPANY

NK式生物研究用機器

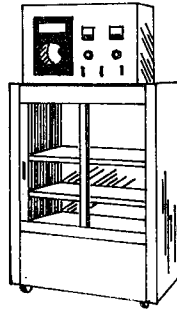
NK式電気低温恒温器(送風循環型) 高精度普及型



型式	L.P-100 -S型	L.P-150 -S型	L.P-200 -S型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	24万円	27.5万円	30万円

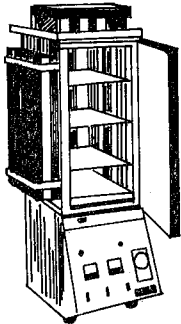
※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器(送風循環型) 四季の温度がプログラムで自在に再現できます!



型式	L.P-100 -3P	L.P-150 -3P	L.P-200 -3P
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	43万円	45万円	48万円

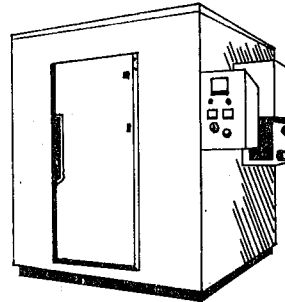
NK式人工気象器 植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派!



型式	L.H-100 -R型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	温度のみ 43万円	温・湿 度付 65万円	プログラ ム付 55万円

※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽 組立、移設、増設が思いのまま!

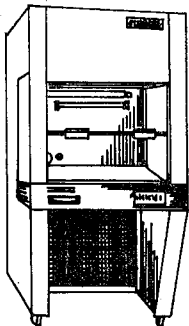


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪 1,080,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪 1,170,000円
より各種

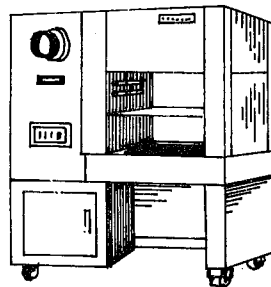
※詳細はプレハブシリー
ズカタログをご請求下
さい。

NK式クリーンベンチ(垂直層流型)



NKB-VS-850
¥750,000
NKB-VS-1300
¥850,000

NK式クリーンベンチ(垂直層流両面型) 無菌作業の能率アップに!



NKB-VW-850
¥1,000,000
NKB-VW-1300
¥1,300,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本社 〒550 大阪市西区江戸堀北通1丁目25番地
東京営業所 〒183 東京都府中市清水ヶ丘1の3小林ビル
工場 〒577 東大阪市新家東町54番地

電話 大阪06 (443)0712(代)
電話 府中0423 (65) 3245
電話 大阪06 (788) 1383-4